

## 2024 年度第 13 回執行理事会議事録

日程：2025 年 6 月 7 日（土）10:00-12:15 【WEB 会議】

出席：山路 敦，杉田律子，星 博幸，亀高正男，内野隆之，岩井雅夫，内尾（保坂）優子，大坪 誠，尾上哲治，加藤猛士，小宮 剛，坂口有人，高嶋礼詩，細矢卓志，松田達生，矢部 淳，山口飛鳥

監事：山本正司，岩部良子

事務局 澤木

欠席：辻森 樹

\*定足数（過半数：10）に対し、執行理事 17 の出席

\*前回 24-13 議事録案は、本執行理事会にて承認された。

### 報告事項（理事会報告の確認）

#### 1. 全体的報告

- 日本地理学会より百周年記念行事（6/21, 会場：東京大学）の招待があった。杉田副会長が出席予定。

#### 2. 運営財政部会（加藤・細矢）

##### 1) 総務委員会

＜共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等＞

- 東北大学総合学術博物館より、ウタツギヨリュウ化石天然記念物国指定 50 周年記念＆南三陸町誕生 20 周年記念「南三陸の魚竜化石と大地の生い立ち」（7/19-10/19, 会場：南三陸町歌津総合支所化石展示室）への後援依頼があり、承諾した。
- アジア恐竜協会事務局より、第 6 回アジア恐竜国際シンポジウム（9/26-30, 会場：福井県立大学）への後援依頼があり、承諾した。
- 第 41 回ゼオライト研究発表会（11/27-28, 会場：富山国際会議場）への協賛依頼があり、承諾した。
- ・

＜会員＞

##### 1. 今月の入会者：14 名

正会員一般（2） 舟山 淳（再入会），関口将司

正会員学生（12）…単年度（4名），2年パック（4名），3年パック（4名）上山拓馬，塚脇 遼，松本拓己，駒木野照太，國谷七海，松本祐門，菊池凌太，田口創大，前川滉樹，長嶽桃花，長岡魁人，渡邊美紀

##### 2. 今月の退会者：3 名

正会員一般（3） 越智輝耶，服部 海，佐藤瑠晟

##### 3. 今月の逝去者：2 名

名譽会員 植村 武（逝去日：2025 年 5 月 14 日）

正会員シニア 後藤博弥（逝去日：2025 年 5 月 15 日）

##### 4. 2025 年 5 月末会員数

賛助：37, 名誉：33, ジュニア会員：6, 正会員：3028 [内訳 一般 1977, シニア 889, 学生 162]

合計 3104 (昨年比-15)

<会計>

特になし

<その他>

- 中部支部巡検『瀬戸川帯南部の超塩基性-塩基性岩類の産状』(6/22)への学生半額補助適用希望があった. 参加費：1人 5000 円.

### 3. 広報部会 (坂口・内尾・大坪・松田)

1) 広報委員会 (坂口・内尾)

- SNS (X) のフォロワー数が 3500 人 (前月比+100) に到達した.

### 4. 学術研究部会 (辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会 (高嶋・山口)

- 2025 熊本大会：大会サイト開設し, 講演申込受付を開始した (7/9 締切). 大会参加登録, 巡見の申込受付は準備中. なお, 巡検コースの情報 (案内) をもっと早い時期に公表して欲しいとの要望が複数の会員よりあり, 来年度からはコースタイトル等の概要だけでもできるだけ早く告知する予定.

2) 専門部会連絡委員会 (尾上)

特になし

3) 国際交流委員会 (辻森)

特になし

4) 地質標準化委員会 (内野)

特になし

5) 学術戦略 WG (尾上)

特になし

6) ショートコース WG (山口)

特になし

### 5. 編集出版部会 (小宮・辻森)

1) 地質学雑誌編集委員会 (小宮)

(1) 編集状況報告 (2025 年 6 月 6 日現在)

- 2025 年投稿論文：23 (昨年比-9) [内訳] 総説 1 (和文 1), 論説 12 (和文 11, 英文 1), 報告 1 (和文 1), レター 2 (和文 2), ノート 1 (和文 1), 巡検案内書 6  
査読中 27, 受理済み 7, 入稿・校正中 4, 公開 12

2) Island Arc 編集委員会 (辻森)

特になし

3) 企画出版委員会 (小宮)

- 令和 8 年度版学習資料「一家に 1 枚」企画募集があった.

## 6. 社会貢献部会（矢部・岩井・坂口）

- 1) 地学教育委員会（岩井）

特になし

- 2) 地質技術者教育委員会（加藤）

特になし

- 3) 生涯教育委員会（矢部）

シニアアンケートの回答結果を改めて執行理事会内で共有し、各事業部会で具体的な検討を進める。

- 4) 地震火山地質こどもサマースクール（岩井）

特になし

- 5) 地質の日（矢部）

特になし

## 7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

- 1) 利益相反マネージメント委員会（亀高）

特になし

- 2) 若手育成事業検討 WG（内野）

第1回若手奨励金受給者1名から使用期間延長について問い合わせがあったが、最終的には辞退の申し出があり、全額返金で手続きを完了した。

- 3) 表彰制度検討 WG（亀高）

特になし

## 8. 理事会の下に設置される委員会

- 1) ジオパーク支援委員会（矢部）

・『大地と人の物語—地質学でよみとく日本の伝承』（日本地質学会編、創元社発行、A5版、168頁、定価2,890円（税込））が出版された。出版に伴い、地質学会会員限定の特別販売キャンペーンが実施される（創元社商品全品1割引のクーポンコード発行、使用期限7/10-8/25）。ニュース誌等で会員へ周知する。

- 2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）

特になし

- 3) 支部長連絡会議（杉田）

9月熊本大会で連絡会議を対面で開催する予定であり、執行理事からも各支部へ要望等があれば知らせてほしい。参加者として支部長と支部選出理事の両方に声をかける。

- 4) 地質災害委員会（松田）

特になし

- 5) 名誉会員推薦委員会（星）

特になし

- 6) 各賞選考委員会（亀高）

- 特になし
- 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（山口）  
特になし
- 8) 法務委員会（亀高）  
特になし
- 9) 若手活動運営委員会（星）  
特になし
- 10) その他
- (1) 熊本大会での理科（地学）教科書に関する説明・意見交換会（星）  
学校教科書に詳しい川辺文久会員と打ち合わせを行った。会は1~1.5時間、司会進行は星、最初に川辺会員が30分程度の説明、続いて星が10~15分程度の補足説明を行い、その後は参加者が自由に意見交換を行う予定。
- (2) 地質学教科書シリーズ（星）
- 教科書の新シリーズ出版に向けて共立出版側と相談した。印税等は基本的に「フィールドジオロジー」シリーズと同じになる見込み。熊本大会までに学会側の編集体制を固め、熊本大会で打ち合わせを行いたい。
  - 「フィールドジオロジー」シリーズの全面あるいは一部改訂についても相談した。ベーシック教科書シリーズと同時並行で作業を進めるのは無理がありそうなので、「フィールドジオロジー」の全面改訂を10年後に行う予定とすることで合意した。
- (3) 地質年代表日本語表記の適用（高嶋）
- 産総研の1/20万日本シームレス地質図V2の時代名（期）表記について、いくつか最新の年代表に合っていないものがあるため、反映をお願いしたい。

## 9. 研究委員会

- 1) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）  
特になし
- 2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）  
特になし

## 審議事項

- IUGS Geo-heritage事業の公募（7/1-10/1）について（矢部）  
世界で100の地質標本を選定するGeo-collectionの募集が始まっている。地質学会としては、ニュース誌、ジオフラッシュ、メーリングリストなどを通じて会員及び大学・博物館などの関係機関に応募を働きかける。執行理事からは、黒鉱やナウマンのルートマップなども対象になり得るとのコメントがあった。
- シニア会員の活躍に関する事業（山路）  
シニア会員の活躍の場の提供として、まずは、アンケートにて事務局の手伝いを希望された方に古

い地質学雑誌の J-STAGE 未収録箇所（雑報等）の補完に係る事務作業をお願いしたい。常務理事と事務局で人選を進める。また、シニア会員には各支部で活躍頂くことも想定し、各支部でどのような活躍の場を創設できるか今後検討する。

### 3. 2027 つくば大会会場について（高嶋）

会場予定のつくば国際会議場の使用料はかなり高額になる見込み。しかし、もう一方の会場候補であった筑波大学はさらに高額になること、加えて他に代替会場がないことから、つくば国際会議場を大会会場とすることが承認された。赤字幅を縮小できるように、企業展示、業界説明会の強化も含めて収入増につながる検討を進める。また、学会の厳しい財政状況を踏まえ、つくば大会以降の大会会場選定等には行事委員会も初期段階から積極的に関わることが確認された。また、計画段階から費用面も考慮してもらえるように、各支部にも学術大会関係費用を開示していくこととした。

### 監事コメント

（山本監事）全国に存在するシニア会員皆が活躍できる場の提供を期待する。学術大会は年々財政が厳しくなってきており、赤字補填の引当金も限界があるので、抜本的な改革をしていく時期に来ていると感じる。

（岩部監事）シニア会員の活躍については、各支部ともよく連携し、様々な活躍の場を作ってほしい。学術大会の赤字が年々大きくなっていく中、LOCには財政的な観点も含め、持続可能な大会の企画を策定していくって欲しい。

以上

2025年6月30日

一般社団法人日本地質学会  
会長（代表理事）山路 敦  
署名人 執行理事 亀高正男